科目 No.14

分　野	専門基礎分野	科　目	解剖生理学Ⅰ （人体、身体の支持と運動、生殖・発生と老化のしくみ）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期
講師名	井上隆司	所属および実務経験	福岡大学医学部　名誉教授／医師		

【科目のねらい】

対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践するためには、人体の構造（解剖）と機能（生理）を理解することが非常に重要です。看護の観点から人体を系統だて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力や判断力につなぎ、臨床判断能力の基盤となる科目です。解剖生理学は、実践の科学である看護学の土台となります。1 年生から主体的に学び堅固な土台を造っていきましょう。

【目的】対象の状態を理解するために、看護の観点から系統だてて、人体の構造と機能（人体、身体の支持と運動、生殖・発生と老化のしくみ）の知識を養う。

【到達目標】

1. 形・素材・機能からみた人体の構造と機能を関連づけて説明することができる。
2. 身体の支持と運動の構造と機能を関連づけて説明することができる。
3. 生殖・発生と老化のしくみの構造と機能を関連づけて説明することができる。
4. 主体的に学習する姿勢を身につけることができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法
1	5/7	3	3	解剖生理学のための基礎知識：構造からみた人体	講義　演習 ポストテスト（3）
2	5/7	4	4	素材からみた人体： 人体とはどのようなものか、細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの生成、蛋白質の生成	講義　演習 ポストテスト（3）
3	5/14	3	3	素材からみた人体： 細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、分化した細胞がつくる組織	講義　演習 ポストテスト（5）
4	5/14	4	4	機能からみた人体： 動物機能と植物機能の器官系、体液とホメオスタシス	講義　演習 ポストテスト（5）
5	5/21	3	3	人体について：学習のまとめ 人体をペインティングでイメージ化してみよう、一日の行動を記録してみよう	演習
6	5/21	4	4	身体の支持と運動：骨格とはどのようなものか、骨の連結	講義　演習 ポストテスト（3）
7	5/28	3	3	身体の支持と運動：骨格筋、体幹の骨格と筋	講義　演習 ポストテスト（3）
8	5/28	4	4	身体の支持と運動：上肢の骨格と筋	講義　演習 ポストテスト（3）
9	6/5	3	3	身体の支持と運動：下肢の骨格と筋	講義　演習 ポストテスト（3）
10	6/5	4	4	身体の支持と運動：頭頸部の骨格と筋、筋の収縮、運動と代謝	講義　演習 ポストテスト（3）

11	6/11	4	4	身体の支持と運動：学習のまとめ 自分の身体を触れて、動かして、骨格と筋を復習しよう（筋肉・骨かるた、ボディーアクション）	演習
12	6/18	3	3	生殖・発生と老化のしくみ：男性生殖器、女性生殖器	講義　演習 ポストテスト（3）
13	6/18	4	4	生殖・発生と老化のしくみ：受精と胎児の発生	講義　演習 ポストテスト（3）
14	6/26	3	3	生殖・発生と老化のしくみ：成長と老化	講義　演習 ポストテスト（3）
15	6/28	3	4	生殖・発生と老化のしくみ：学習のまとめ 男性と女性はどこが違うのか、テーマ別に絵本にまとめ、学びの共有	演習
７月８日（月）１限目				筆記試験	

【準備学習内容】

自然科学の学習を活用できるように復習しておきましょう。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

わからない語句について調べておきましょう。入学前に行なった看護学生プレトレーニング（人体を構成する細胞・組織・器官・器官系）を復習し持参して下さい。

動画視聴：「目で見る解剖と生理」：細胞・遺伝子、運動系Ⅰ・Ⅱ、生殖を動画視聴しておいてください。

看護教育シリーズ　生体のしくみ　の動画も参考になりますので、自己学習で活用しましょう。

【使用するテキスト】

坂井建雄他著　系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能　1　解剖生理学　医学書院　2024

竹田津文俊編　説明できる解剖生理　病態・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2020

【参考文献】

坂井建雄・橋本尚詞著　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版　2010

ニュートン別冊　人体の取扱説明書　改訂第２版　ニュートンプレス　2022

ニュートン別冊　人体完全ガイド　改訂第２版　ニュートンプレス　2020

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（40 点）、演習への取り組み・成果（15 点）、筆記試験（45 点）

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.15

分　野	専門基礎分野	科　目	解剖生理学Ⅱ （呼吸と血液のはたらき、血液の循環とその調節）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期
講師名	神谷有規子	所属および実務経験	専任教員／看護師		
	井上隆司		福岡大学医学部　名誉教授／医師		

【科目のねらい】

対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践するためには、人体の構造（解剖）と機能（生理）を理解することが非常に重要です。看護の観点から人体を系統だて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力や判断力につなぎ、臨床判断能力の基盤となる科目です。解剖生理学は、実践の科学である看護学の土台となります。1 年生から主体的に学び堅固な土台を造っていきましょう。

【目的】対象の状態を理解するために、看護の観点から系統だてて、人体の構造と機能（呼吸のはたらき、血液のはたらき、血液の循環とその調節）の知識を養う。

【到達目標】

1. 呼吸と血液のはたらきの構造と機能を関連づけて説明することができる。
2. 血液の循環とその調節の構造と機能を関連づけて説明することができる。
3. 主体的に学習する姿勢を身につけることができる。

【DP との関連】

DP 3　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP 4　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP 6　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	5/22	1	1	呼吸のはたらき：呼吸器の構造	講義　演習 ポストテスト（3）	指導講師（井上隆司先生）合同
2	5/22	2	2	呼吸のはたらき：呼吸（内呼吸と外呼吸、呼吸器と呼吸運動、呼吸気量）	講義　演習 ポストテスト（3）	
3	5/29	1	1	呼吸のはたらき：呼吸（ガス交換とガスの運搬、肺の循環と血流）	講義　演習 ポストテスト（3）	
4	5/29	2	2	呼吸のはたらき：呼吸（呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理）	講義　演習 ポストテスト（3）	
5	6/3	3	2	呼吸のはたらき：学習のまとめ 胸腔内の模型を作成し互いに働きを教え合ってみよう	演習	指導講師（井上隆司先生）合同
6	6/6	3	3	血液の循環とその調節：循環器系の構成、心臓の構造	講義　演習 ポストテスト（3）	
7	6/6	4	4	血液の循環とその調節：心臓の拍出機能	講義　演習 ポストテスト（3）	
8	6/10	3	2	血液の循環とその調節：末梢循環系の構造（血管の構造、肺循環の血管）	講義　演習 ポストテスト（3）	指導講師（井上隆司先生）合同
9	6/11	1	1	血液の循環とその調節：末梢循環系の構造（体循環の動脈、体循環の静脈）	講義　演習 ポストテスト（3）	
10	6/11	2	2	血液の循環とその調節：血液の循環の調節（血圧、血液の循環、血圧・血流量の調節）	講義　演習 ポストテスト（3）	
11	6/11	3	3	血液の循環とその調節：血液の循環の調節（微小循環、循環器系の病態生理）　・リンパとリンパ管	講義　演習 ポストテスト（5）	

12	6/19	3	3	血液のはたらき：血液（血液の組成と機能、赤血球、白血球、血小板）	講義　演習 ポストテスト（5）	
13	6/21	2	2	血液のはたらき：血液 （血漿タンパク質と赤血球沈降速度、血液の凝固と繊維素溶解、血液型）	講義　演習 ポストテスト（3）	
14	6/26	4	4	血液のはたらきと血液の循環とその調節：学習のまとめ	演習	
15	6/28	4	3	テーマ別で紙芝居を作成し、学びの共有		
7月16日（火）1限目				筆記試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

わからない語句について調べておきましょう。入学前に行なった看護学生プレトレーニング（人体を構成する細胞・組織・器官・器官系）を復習し持参して下さい。

動画視聴：「目で見る解剖と生理」：呼吸、血液、循環系Ⅰ・Ⅱを動画視聴しておいてください。

看護教育シリーズ　生体のしくみ　の動画も参考になりますので、自己学習で活用しましょう。

【使用するテキスト】

坂井建雄他著　系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能　1　解剖生理学　医学書院　2024

竹田津文俊編　説明できる解剖生理　病態・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2020

【参考文献】

坂井建雄・橋本尚詞著　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版　2010

ニュートン別冊　人体の取扱説明書　改訂第2版　ニュートンプレス　2022

ニュートン別冊　人体完全ガイド　改訂第2版　ニュートンプレス　2020

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（40点）、演習への取り組み・成果（15点）、筆記試験（45点）

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.16

分　野	専門基礎分野	科　目	解剖生理学Ⅲ（栄養の消化と吸収、体液の調節と尿の生成）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期
講師名	永田英子	所属および実務経験	泯江堂　三野原病院　教育担当師長／ 専任教員養成講習会修了・看護師 特定看護師（栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）		
	藤木美春		専任教員／看護師		
	井上隆司		福岡大学医学部　名誉教授／医師		

【科目のねらい】

対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践するためには、人体の構造（解剖）と機能（生理）を理解することが非常に重要です。看護の観点から人体を系統だて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力や判断力につなぎ、臨床判断能力の基盤となる科目です。解剖生理学は、実践の科学である看護学の土台となります。1 年生から主体的に学び堅固な土台を造っていきましょう。

【目的】対象の状態を理解するために、看護の観点から系統だてて、人体の構造と機能（栄養の消化と吸収、体液の調節と尿の生成）の知識を養う。

【到達目標】

1. 栄養の消化と吸収の構造と機能を関連づけて説明することができる。
2. 体液の調節と尿の生成の構造と機能を関連づけて説明することができる。
3. 解剖見学した人体の構造と機能を説明することができる。
4. 主体的に学習する姿勢を身につけることができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	7/3	3	3	栄養の消化と吸収：口・咽頭・食道の構造と機能	講義　演習 ポストテスト（３）	永田英子 1・6は２名の講師が担当（井上隆司）
2	7/5	3	3	栄養の消化と吸収：腹部消化管の構造と機能（胃の構造と機能、小腸の構造と機能）	講義　演習 ポストテスト（３）	
3	7/5	4	4	栄養の消化と吸収：腹部消化管の構造と機能(栄養素の消化と吸収、大腸の構造と機能)	講義　演習 ポストテスト（３）	
4	7/12	2	2	栄養の消化と吸収：膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能　（膵臓、肝臓と胆嚢の構造）	講義　演習 ポストテスト（３）	
5	7/12	3	3	栄養の消化と吸収：膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能　（肝臓の機能、腹膜）	講義　演習 ポストテスト（３）	
6	7/17	3	4	栄養の消化と吸収：学習のまとめ 消化器の機能と食物の消化と吸収についてテーマに沿ったプレゼンをしよう	演習	
7	9/2	1	1	体液の調節と尿の生成：腎臓（腎臓・糸球体の構造と機能）	講義　演習 ポストテスト（３）	
8	9/2	2	2	体液の調節と尿の生成：腎臓（尿細管の構造と機能）	講義　演習 ポストテスト（３）	
9	9/17	2	2	体液の調節と尿の生成：腎臓（傍糸球体装置、クリアランスと糸球体濾過量、腎臓から分泌される生理活性物質）	講義　演習 ポストテスト（３）	

10	9/17	3	3	体液の調節と尿の生成：排尿路（排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿）	講義　演習 ポストテスト（３）	永田英子
11	9/17	4	4	体液の調節と尿の生成：体液の調節	講義　演習 ポストテスト（３）	
12	9/24	4	3	体液の調節と尿の生成：学習のまとめ 体液の調節についてテーマに沿ったプレゼンをしよう	演習	
13	12/2	4	4	人体構造と機能の理解の実際：オリエンテーション	演習	13 は ２名の講師が担当 井上隆司 藤木美春
14	12/19	1	3	人体構造と機能の理解：実際	解剖見学 （事前学習）	
15	12/19	2	4			
10 月 5 日（土）1 限目				筆記試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

わからない語句について調べておきましょう。入学前に行なった看護学生プレトレーニング（人体を構成する細胞・組織・器官・器官系）を復習し持参して下さい。

動画視聴：「目で見る解剖と生理」：消化系Ⅰ・Ⅱ、腎・尿路を動画視聴しておいてください。

看護教育シリーズ　生体のしくみ　の動画も参考になりますので、自己学習で活用しましょう。

解剖見学の事後課題として、学びをレポートにまとめ指定日時までに提出してください。

【使用するテキスト】

坂井建雄他著　系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能　1　解剖生理学　医学書院　2024

竹田津文俊編　説明できる解剖生理　病態・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2020

【参考文献】

坂井建雄・橋本尚詞著　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版　2010

ニュートン別冊　人体の取扱説明書　改訂第２版　ニュートンプレス　2022

ニュートン別冊　人体完全ガイド　改訂第２版　ニュートンプレス　2020

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（20 点）、筆記試験（50 点）

解剖見学の学びレポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

解剖見学は後期となります。この科目は 12 回目までの授業終了後に筆記試験を行います。試験後、解剖見学を欠席し出席時間が不足した場合は、評価対象外となりますのでご注意ください。

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

解剖見学は１月予定です。

科目 No.17

分　野	専門基礎分野	科　目	解剖生理学Ⅳ （内臓機能の調節、情報の受容と処理、身体機能の防御と適応）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年全期
講師名	井上隆司	所属および実務経験	福岡大学医学部　名誉教授／医師		

【科目のねらい】

対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践するためには、人体の構造（解剖）と機能（生理）を理解することが非常に重要です。看護の観点から人体を系統だて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力や判断力につなぎ、臨床判断能力の基盤となる科目です。解剖生理学は、実践の科学である看護学の土台となります。1 年生から主体的に学び堅固な土台を造っていきましょう。

【目的】対象の状態を理解するために、看護の観点から系統だてて、人体の構造と機能（内臓機能の調節、情報の受容と処理、身体機能の防御と適応）の知識を養う。

【到達目標】

1. 内臓機能の調節の構造と機能を関連づけて説明することができる。
2. 情報の受容と処理の構造と機能を関連づけて説明することができる。
3. 身体機能の防御と適応の構造と機能を関連づけて説明することができる。
4. 主体的に学習する姿勢を身につけることができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	7/3	4	4	内臓機能の調節：自律神経による調節、内分泌系による調節	講義　演習 ポストテスト（4）	
2	7/9	3	3	内臓機能の調節：全身の内分泌腺と内分泌細胞（視床下部-下垂体系）	講義　演習 ポストテスト（4）	
3	7/9	4	4	内臓機能の調節：全身の内分泌腺と内分泌細胞（甲状腺と副甲状腺、膵臓）	講義　演習 ポストテスト（4）	
4	7/16	3	3	内臓機能の調節：全身の内分泌腺と内分泌細胞（副腎、性腺） ホルモン分泌の調節・ホルモンによる調節の実際	講義　演習 ポストテスト（4）	
5	7/16	4	4	内臓機能の調節：学習のまとめ 種々の自律神経反射について調べ、互いにその仕組みと働きを教え合ってみよう	演習	
6	7/23	3	3	情報の受容と処理：神経系の構造と機能	講義　演習 ポストテスト（3）	
7	7/23	4	4	情報の受容と処理：脊髄と脳	講義　演習 ポストテスト（3）	
8	9/10	3	3	情報の受容と処理：脊髄神経と脳神経、運動機能と下行伝導路	講義　演習 ポストテスト（3）	
9	9/10	4	4	情報の受容と処理：感覚機能、体性感覚と上行伝導路、眼の構造と視覚	講義　演習 ポストテスト（3）	

10	9/24	1	1	情報の受容と処理：耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、痛み（疼痛）	講義　演習 ポストテスト（3）	
11	9/24	2	2	情報の受容と処理：脳の統合機能	講義　演習 ポストテスト（3）	
12	9/24	3	4	情報の受容と処理：学習のまとめ 脊髄・脳幹レベルの反射と脳の高次機能について、実際に臨床検査を試して理解を深めよう。	演習	
13	10/1	3	3	身体機能の防御と適応：皮膚の構造と機能、体温とその調節	講義　演習 ポストテスト（3）	
14	10/1	4	4	身体機能の防御と適応：生体の防御機能	講義　演習 ポストテスト（3）	
15	10/9	3	4	身体機能の防御と適応：学習のまとめ 生体の防御や適応が破綻した病態について調べ、互いに教え合い理解を深めよう。	演習	
10 月 17 日（木）1 限目				筆記試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

わからない語句について調べておきましょう。入学前に行なった看護学生プレトレーニング（人体を構成する細胞・組織・器官・器官系）を復習し持参して下さい。

動画視聴：「目で見る解剖と生理」：自律神経・内分泌、神経系Ⅰ・Ⅱ、免疫を動画視聴しておいてください。

看護教育シリーズ　生体のしくみ　の動画も参考になりますので、自己学習で活用しましょう。

【使用するテキスト】

坂井建雄他著　系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能　1　解剖生理学　医学書院　2024

竹田津文俊編　説明できる解剖生理　病態・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2020

【参考文献】

坂井建雄・橋本尚詞著　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版　2010

ニュートン別冊　人体の取扱説明書　改訂第 2 版　ニュートンプレス　2022

ニュートン別冊　人体完全ガイド　改訂第 2 版　ニュートンプレス　2020

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（40 点）、演習への取り組み・成果（15 点）、筆記試験（45 点）

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.18

分　野	専門基礎分野	科　目	解剖生理学Ｖ（子どもの成長・発達、心のはたらきやしくみと人格）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	１単位 １６時間（８回）	配当時期	１年後期

講師名		所属および実務経験	
	上野ふじ美		専任教員／看護師
	藤松正行		専任教員／看護師
	井上隆司		福岡大学医学部　名誉教授／医師

【科目のねらい】

対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践するためには、人体の構造（解剖）と機能（生理）を理解することが非常に重要です。看護の観点から人体を系統だて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力や判断力につなぎ、臨床判断能力の基盤となる科目であり、解剖生理学Ｖでは子どもの成長・発達、心のさまざまなはたらきとしくみを習得しましょう。

解剖生理学は、実践の科学である看護学の土台となります。１年生から主体的に学び堅固な土台を造っていきましょう。

【目的】対象の状態を理解するために、看護の観点から系統だてて、人体の構造と機能（子どもの成長・発達、心のはたらきやしくみと人格）の知識を養う。

【到達目標】

1. 子どもの成長・発達（身体的、知的、心理・社会的な諸機能）を関連づけて説明することができる。
2. 心のさまざまなはたらきとしくみを関連づけて説明することができる。
3. 主体的に学習する姿勢を身につけることができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	１組	２組	学習内容	方法	備考
1	10/17	2	2	子どもの成長・発達：新生児、乳児、幼児、学童、思春期 演習；形態的特徴、身体生理の特徴、感覚機能、運動機能、知的機能、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能について	講義　演習 ポストテスト （５）×２ （1,3 回目）	上野ふじ美 １・５は２名の講師が担当 (井上隆司)
2	10/18	1	1			
3	10/18	2	2			
4	10/22	2	2	子どもの成長・発達：　めくってわかる、伝えてわかる子どもの身体のしくみ① 演習；課題で作成した絵本をグループメンバーで検討してみよう	講義　演習	
5	10/30	4	3	子どもの成長・発達：　めくってわかる、伝えてわかる子どもの身体のしくみ② 学習のまとめ 演習の成果を発表し共有する	演習	
6	10/30	1	1	心のはたらきと人格の形成 心のはたらき：意識と認知機能、感情、学習（バンデューラ　自己効力感）と行動、知能 心のしくみと人格の発達　　精神力動理論（フロイト）	講義　演習 ポストテスト （5）×２ （6,7 回目）	藤松正行 8は２名の講師が担当 (井上隆司)
7	10/30	2	2			
8	11/7	1	2			
11 月 20 日（水）１限目				筆記試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

わからない語句について調べておきましょう。入学前に行なった看護学生プレトレーニング（人体を構成する細胞・組織・器官・器官系）を復習し持参して下さい。

動画視聴：「目で見る子どもの保健」の成長（発育）・発達と健康と保健の動画を事前に視聴し、１回目の講義を受講しましょう。

また、「子どもの発達と支援」「赤ちゃんの１年」視聴して学習に役立てましょう。

看護教育シリーズ　生体のしくみ　の動画も参考になりますので、自己学習で活用しましょう。

６回目以降の授業は、解剖生理学Ⅳ：６回目～９回目の範囲（脳神経系の人体の構造と機能）は復習しておきましょう。
課題： ４回目は演習があります。事前課題は絵本作りです。５回目の授業終了後、提出となります。

【使用するテキスト】
奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野　小児看護学[1]　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院　2024
武井麻子他著　系統看護学講座　専門分野　精神看護学[1]　精神看護の基礎　医学書院　2024
竹田津文俊編　説明できる解剖生理　病態・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2020

【参考文献】
坂井建雄・橋本尚詞著　ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版　2010
岩﨑弥生編　精神看護学１　精神看護学概論／精神保健　メヂカルフレンド社　2024
ニュートン別冊　精神科医が語る精神の病気　増補第２版　ニュートンプレス　2021

【評価方法】
授業終了時のポストテスト（20 点）、課題及び演習への取り組み・成果（15 点）、筆記試験（65 点）
上野ふじ美先生：ポストテスト（10 点）　演習への取り組み・成果（10 点）筆記試験（45 点）
藤松　正行先生：ポストテスト（10 点）　演習への取り組み・成果（5 点）筆記試験（20 点）
最終日にレポート試験のテーマを知らせます。試験と同じ取り扱いです。指定された日時までに提出してください。
指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】
16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.19

分　野	専門基礎分野	科　目	栄養・代謝		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期
講師名	山﨑京子	所属および実務経験	管理栄養士		
	藤原勝子		管理栄養士		

【科目のねらい】

人は食べ物を摂取・消化し、そこから栄養素を体内に吸収し、代謝することによって適正な栄養状態を維持しています。生体を正常に維持するための物質の役割や生体を分子レベルで理解しましょう。また人の健康は栄養の摂り方に大きな影響を受けています。そのため、対象の栄養状態を評価し、個々にあった栄養ケアを多職種連携・協働で実践することで栄養状態を改善し QOL を向上させることが重要です。各栄養素の消化吸収・代謝過程、栄養状態の評価・判定方法、ライフステージや疾患と栄養との関連について学び、栄養ケアにおける看護職の役割認識や、対象の QOL 向上を目指し対象の持てる力を活かした看護の基礎を養う機会にしていきましょう。

【目的】人体の構造や機能に関連する栄養・代謝について、系統だてて理解し、栄養ケアにおける看護職の役割や対象の QOL 向上を目指し、持てる力を活かした看護の基礎を養う。

【到達目標】

1. 各栄養素の消化吸収・代謝について説明することができる。
2. 栄養状態を評価・判定することができる。
3. ライフステージと栄養の必要性について説明することができる。
4. 疾患の原因や治療と栄養の関連について説明することができる。
5. 栄養ケアにおける看護師の役割について述べることができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	11/18	1	1	人間栄養学と看護	講義 ポストテスト（3）	山﨑京子
2	11/18	2	2	栄養素の種類とはたらき	講義 ポストテスト（3）	
3	11/25	3	3	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	講義 ポストテスト（3）×2	
4	11/25	4	4			
5	12/2	1	1	エネルギー代謝	講義 ポストテスト（3）	
6	12/2	2	2	食事と食品	講義 ポストテスト（3）	
7	12/9	1	1	栄養ケア・マネジメント	講義 ポストテスト（3）	
8	12/9	2	2	学習のまとめ	講義 ポストテスト（3）	
9	12/20	2	2	ライフステージと栄養 事例演習：ライフステージ各期における栄養 演習の成果を発表し共有する	講義　演習 ポストテスト（3） ×3	藤原勝子
10	12/27	2	2			
11	12/27	3	3			
12	1/10	2	2	栄養状態の評価・判定演習：病院で行われている栄養状態の評価・判定について 臨床栄養（１）：病院食、栄養補給法、経腸栄養製品、静脈栄養剤疾患・症状別食事療法（やせ・低栄養、肥満、循環器疾患、消化器疾患、下痢・便秘）	講義　演習 ポストテスト（3）	

13	1/10	3	3	臨床栄養（２）：疾患・症状別食事療法（糖尿病、脂質異常症、痛風、腎疾患、貧血、骨粗鬆症、摂食・嚥下障害）	講義　演習 ポストテスト（3）	
14	1/31	2	2	臨床栄養（３）：場面別の栄養管理（治療を要する小児の栄養管理、がんの食事療法）	講義　演習 ポストテスト（3）	
15	1/31	3	3	健康づくりと食生活	講義 ポストテスト（3）	藤原勝子
２月 10 日（月）１限目				筆記試験		

【準備学習内容】

解剖生理学（食物の消化・吸収・代謝）の学習を活用できるように復習しておきましょう。生化学のテキスト（第 1 部　生体を構成する物質とその代謝）も使用して学習しましょう。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

動画視聴：「目で見る生化学」や「やさしい栄養学」の動画を視聴して理解を深めましょう。

【使用するテキスト】

中村丁次他著　系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能　3　栄養学　医学書院　2024

中村丁次他著　系統看護学講座　別巻　栄養食事療法　医学書院　2024

畠山鎮次著　系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能 2　生化学　医学書院　2024

【参考文献】

關戸啓子編　ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち④　臨床栄養学　メディカ出版　2024

宮澤恵二編　ナーシング・グラフィカ　人体の構造と機能②　臨床生化学　メディカ出版　2024

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（45 点）、筆記試験（55 点）

山﨑京子：ポストテスト（24 点）、筆記試験（30 点）

藤原勝子：ポストテスト（21 点）、筆記試験（25 点）

課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.20

分　野	専門基礎分野	科　目	病態生理学		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	1 年後期
講師名	山座孝義	所属および実務経験	九州大学大学院歯学研究院　教授／歯科医師		
	クレスポ亜沙美		専任教員／看護師		

【科目のねらい】

身体を構成している細胞・組織・器官が正常な形態を保ち、的確に生理機能を果たすことで健康を保っています。これらの形態や生理機能が破綻することで症状・徴候の出現や疾病に至ります。科学的根拠に基づき看護実践できるようになるためには、正常な形態や生理機能の知識を踏まえ、疾病のなりたちや様々な症状・徴候の原因と病態生理の知識が必要です。解剖生理学や疾病と治療で学んだ知識を連動させながら、身体の中でどのようなことが起きているのか、日常生活にどのような影響を及ぼすのか、皆でディスカッションしながら明らかにしていきましょう。

【目的】看護実践に必要な疾病のなりたちや様々な症状・徴候の原因と病態生理の知識と臨床判断能力の基盤を養う。

【到達目標】

1. 循環障害、細胞・組織の障害、感染症、腫瘍、先天異常と遺伝子異常の原因と病態生理について説明することができる。
2. 事例演習を通して対象の症状・徴候の原因と病態生理について説明することができる。
3. 事例演習を通して日常生活に及ぼす影響から看護の必要性を述べることができる。
4. 事例演習を通して病態生理を踏まえて必要な看護を導きだす考え方を身につけることができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	12/5	1	1	病態生理学を学ぶための基礎知識：正常と病気の状態、循環障害、細胞・組織の障害	講義 ポストテスト（5）	山座孝義
2	12/5	2	2	病態生理学を学ぶための基礎知識：感染症、腫瘍、先天異常と遺伝子異常、老化と死	講義 ポストテスト（5）	
3	12/6	3	3	機能障害：呼吸困難、脱水 演習；事前課題の病態関連図から、身体の中でどのようなことが起きているのか、日常生活にどのような影響を及ぼすか考えてみよう。 演習の成果を発表し共有する	演習 ③ポストテスト （10）	クレスポ亜沙美
4	12/6	4	4			
5	12/11	3	3			
6	12/11	4	4	機能障害：ショック、意識障害 演習；事前課題の病態関連図から、身体の中でどのようなことが起きているのか、日常生活にどのような影響を及ぼすか考えてみよう。 演習の成果を発表し共有する	演習 ⑥ポストテスト （10）	
7	12/17		3			
	12/18	3				
8	12/17		4			
	12/18	4				
12 月 24 日（火）2 限目				筆記試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

3 回目～8 回目は演習があります。解剖生理学や疾病と治療の学習を活用して演習に臨んで下さい。

課題：8 回目終了後に**「貧血」**の課題を提示します。授業で学んだ思考方法を活用して取り組みましょう。

動画視聴：「目で見る病気」：病気の原因、病気と遺伝子、がん（総説）を動画視聴しておいてください。

看護のための病態生理とアセスメントシリーズの「呼吸障害」「脱水」「ショック」「意識障害」の動画を視聴し理解につなげていきましょう。

【使用するテキスト】

土居健太郎著　系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進２　病態生理学　医学書院　2024

坂井建雄他著　系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能 1　解剖生理学　医学書院　2024 竹田津文俊編　説明できる解剖生理　病態・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2020 竹田津文俊編　説明できる病態生理　解剖・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2019
【参考文献】 阿部俊子監修　　エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図　第 3 版　中央法規　2023 関口恵子他編　根拠がわかる症状別看護過程　第 3 版　南江堂　2016 小田正枝編　症状別看護過程　アセスメント・看護計画がわかる！　第 2 版　照林社　2021
【評価方法】 授業終了時のポストテスト（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（20 点）、筆記試験（50 点） 山座孝義：ポストテスト（10 点）　筆記試験（15 点） ｸﾚｽﾎﾟ亜沙美：ポストテスト（20 点）　課題レポートを含む演習への取り組み・成果（20 点）筆記試験（35 点） 課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。
【受講上の注意】 16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.21

分　野	専門基礎分野	科　目	疾病と治療Ⅰ（呼吸器系、循環器系、血液・造血器系）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年前期

講師名		所属および実務経験	
	久末順子		原三信病院　副部長／医師
	庄司哲也		貝塚病院　理事長／医師
	蒲地徹		桜十字福岡病院／医師

【科目のねらい】

対象に身体的・精神的な障害がおこった場合、どのような健康状態におかれているかを理解し、健康レベルに応じた看護を実践することが重要です。対象の反応からどのような健康状態におかれているか臨床判断していくための基礎知識として、各器官の代表的な健康障害について、症状とその病態生理、検査、治療をこの科目で学んでいきます。解剖生理学で学んだ知識（正常な人体の構造と機能）と連動させましょう。

【目的】各器官（呼吸器系、循環器系、血液・造血器系）の健康障害について症状とその病態生理・検査・治療を学び、健康レベルや機能障害に応じた看護を実践できる基礎を養う。

【到達目標】

1. 呼吸器系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。
2. 循環器系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。
3. 血液・造血器系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	9/12	3	3	呼吸器系の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理	講義　演習 ポストテスト（3）	久末順子
2	9/12	4	4	呼吸器系の健康障害と人間の反応：検査と治療・処置	講義　演習 ポストテスト（3）	
3	9/19	3	3	呼吸器系の健康障害と人間の反応：疾患の理解 感染症（急性気管支炎、肺炎、結核）、間質性肺疾患、気道疾患（気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患）、肺血栓塞栓症、呼吸不全、肺腫瘍、胸膜・縦隔・横隔膜の疾患	講義　演習 ポストテスト（3）	
4	9/19	4	4		ポストテスト（4）	
5	9/26	3	3	呼吸器系の健康障害と人間の反応：学習のまとめ（病態関連図；肺炎/肺癌）	演習 課題レポート（5）	
6	9/11	3	3	循環器系の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理	講義　演習 ポストテスト（3）	庄司哲也
7	9/11	4	4	循環器系の健康障害と人間の反応：検査と治療	講義　演習 ポストテスト（3）	
8	9/18	3	3	循環器系の健康障害と人間の反応：疾患の理解 虚血性心疾患、心不全、血圧異常、不整脈、弁膜症、心膜炎（心タンポナーデ）、心筋疾患、肺性心、動脈系疾患、静脈系疾患	講義　演習 ポストテスト（3） ×　3 回	
9	9/18	4	4			
10	9/25	3	3			
11	9/25	4	4	循環器系の健康障害と人間の反応：学習のまとめ（病態関連図；急性心筋梗塞/狭心症）	演習 課題レポート（5）	
12	9/9	1	1	血液・造血器系の健康障害と人間の反応：症状・身体所見と病態生理	講義　演習 ポストテスト（3）	蒲地徹

13	9/9	2	2	血液・造血器系の健康障害と人間の反応：検査と治療　疾病の理解 赤血球系の異常（貧血）、白血球系の異常（無顆粒球症）、白血病、悪性リンパ腫 骨髄腫、出血性疾患、造血器腫瘍の治療（化学療法、造血幹細胞移植、支持療法）	講義　演習 ポストテスト（3）	蒲地徹
14	9/20	3	3		講義　演習 ポストテスト（3）	
15	9/20	4	4	血液・造血器系の健康障害と人間の反応：学習のまとめ（病態関連図；貧血/白血病）	講義　演習 課題レポート（5） ポストテスト（3）	
10月2日（水）3限目				筆記試験		

【準備学習内容】

解剖生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。人体の構造と機能は理解した上で授業は進んでいきます。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

わからない語句について調べておきましょう。

課題レポート：5回目までに、肺炎/肺癌の病態関連図を作成し持参して下さい。5回目の授業終了後、提出となります。

11回目までに、急性心筋梗塞/狭心症の病態関連図を作成し持参して下さい。11回目の授業終了後、提出となります。

15回目までに、貧血/白血病の病態関連図を作成し持参して下さい。15回目の授業終了後、提出となります。

動画視聴：「目で見る病気」：呼吸器の疾患、循環器の疾患、血液の疾患を動画視聴しておいてください。

【使用するテキスト】

川村雅文他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学２　呼吸器　医学書院　2024

吉田俊子他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学３　循環器　医学書院　2024

飯野京子他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学４　血液・造血器　医学書院　2024

竹田津文俊編　説明できる病態生理　解剖・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2018

阿部俊子監修　エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図　第３版　中央法規　2023

【参考文献】

病気がみえるシリーズ　ｖｏｌ．４　呼吸器　ｖｏｌ．２　循環器　ｖｏｌ．５　血液　メディックメディア

石川ふみよ　他　監修　疾患別看護過程の展開　第６版　学研メディカル秀潤社　2020

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（40点）、課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（15点）、筆記試験（45点）

久末順子：ポストテスト（13点）課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5点）　筆記試験（15点）

庄司哲也：ポストテスト（15点）課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5点）　筆記試験（15点）

蒲地　徹：　ポストテスト（12点）課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5点）　筆記試験（15点）

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.22

分　野	専門基礎分野	科　目	疾病と治療Ⅱ（歯・口腔系、消化器系、腎系、女性生殖器系）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年全期

講師名		所属および実務経験	
	山座孝義		九州大学大学院歯学研究院　教授／歯科医師
	中垣　充		西福岡病院／医師
	蒲地徹		桜十字福岡病院／医師
	加藤圭次		ウイメンズ KM クリニック／医師

【科目のねらい】

対象に身体的・精神的な障害がおこった場合、どのような健康状態におかれているかを理解し、健康レベルに応じた看護を実践することが重要です。対象の反応からどのような健康状態におかれているか臨床判断していくための基礎知識として、各器官の代表的な健康障害について、症状とその病態生理、検査、治療をこの科目で学んでいきます。解剖生理学で学んだ知識（正常な人体の構造と機能）と連動させましょう。

【目的】各器官（歯・口腔系、消化器系、腎系、女性生殖器系）の健康障害について症状とその病態生理・検査・治療を学び、健康レベルや機能障害に応じた看護を実践できる基礎を養う。

【到達目標】

1. 歯・口腔系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。
2. 消化器系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。
3. 腎系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。
4. 女性生殖器系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	9/26	1	1	歯・口腔系の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理、検査と治療・処置	講義　演習 ポストテスト（3）	山座孝義
2	9/26	2	2	歯・口腔系の健康障害と人間の反応：疾患の理解 齲蝕および歯髄疾患、口腔領域の炎症、悪性腫瘍、骨折、顎変形症、顎関節症	講義　演習 ポストテスト（3）	
3	9/27	1	1	消化器系疾患の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理	講義　演習 ポストテスト（3）	中垣　充
4	10/1	1	1	消化器系疾患の健康障害と人間の反応：検査と治療	講義　演習 ポストテスト（3）	
5	10/8	1	1	消化器系疾患の健康障害と人間の反応：疾患の理解 食道がん、胃食道逆流症、胃炎、潰瘍、胃がん、腸炎、腹膜炎、虫垂炎、腸閉塞症、大腸がん、肝炎、アルコール性肝障害、脂肪肝、肝硬変症、肝がん、胆石症、胆嚢炎、胆管炎、胆管がん、胆嚢がん、膵炎、膵がん	講義　演習 ポストテスト（3）	
6	10/15	1	1		講義　演習 ポストテスト（3）	
7	10/22	1	1	消化器系疾患の健康障害と人間の反応：学習のまとめ（病態関連図；胃がん/肝硬変）	演習 課題レポート（5）	

8	9/30	1	1	腎系の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理	講義　演習 ポストテスト（3）	蒲地徹
9	9/30	2	2	腎系の健康障害と人間の反応：検査と治療・処置	講義　演習 ポストテスト（3）	
10	10/7	1	1	腎系の健康障害と人間の反応：疾患の理解 腎不全、糸球体腎炎、全身性疾患による腎障害、尿路・性器の感染症、尿路結石症、尿路・性器の腫瘍（腎腫瘍、膀胱がん、前立腺がん）、男性不妊症、男性性機能障害、その他の生殖器疾患	講義　演習 ポストテスト（3）	
11	10/7	2	2		講義　演習 ポストテスト（3）	
12	10/21	1	1	腎系の健康障害と人間の反応：学習のまとめ（病態関連図；慢性腎臓病/尿路性器の腫瘍）	演習　講義 課題レポート（5）	
13	10/28	1	1	女性生殖器系の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理、 診察・検査と治療・処置	講義　演習 ポストテスト（3）	加藤圭次
14	10/28	2	2	女性生殖器系の健康障害と人間の反応：疾病の理解 膣炎、子宮頸がん・体がん、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、乳房の疾患（乳がん、乳腺良性腫瘍性疾患、炎症）、月経異常・月経随伴症状、更年期障害、不妊症	講義　演習 ポストテスト（3） ポストテスト（4）	
15	11/11	1	1			
11 月 20 日（水）3 限目				筆記試験		

【準備学習内容】

解剖生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。人体の構造と機能は理解した上で授業は進んでいきます。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

わからない語句について調べておきましょう。

課題レポート：７回目までに、胃がん/肝硬変の病態関連図を作成し持参して下さい。７回目の授業終了後、提出となります。

１２回目までに、慢性腎臓病/尿路性器の腫瘍の病態関連図を作成し持参して下さい。１２回目の授業終了後、提出となります。

動画視聴：「目で見る病気」：消化器の疾患、肝・胆・膵の疾患、泌尿器の疾患、生殖器の疾患を動画視聴しておいてください。

【使用するテキスト】

渋谷絹子他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学　15　歯・口腔　医学書院　2024

南川雅子他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学　5　消化器　医学書院　2024

大東貴志他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学　8　腎・泌尿器　医学書院　2024

末岡浩他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学　9　女性生殖器　医学書院　2024

竹田津文俊編　説明できる病態生理　解剖・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2018

阿部俊子監修　エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図　第３版　中央法規　2023

【参考文献】

病気がみえるシリーズ　ｖｏｌ．１　消化器　ｖｏｌ．８　腎・泌尿器　ｖｏｌ．９　婦人科・乳腺外科　メディックメディア

石川ふみよ他　監修　疾患別看護過程の展開　第６版　学研メディカル秀潤社　2020

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（40 点）、課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（10 点）、筆記試験（50 点）

山座孝義：ポストテスト（6 点）　筆記試験（7 点）

中垣　充：ポストテスト（12 点）　課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5 点）筆記試験（17 点）

蒲地　徹：ポストテスト（12 点）　課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5 点）筆記試験（17 点）

加藤圭次：ポストテスト（10 点）　筆記試験（9 点）

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.23

分　野	専門基礎分野	科　目	疾病と治療Ⅲ（内分泌・代謝系、脳神経系）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年全期

講師名		所属および実務経験	
	川浪大治		福岡大学病院　教授／医師
	髙士祐一		福岡大学病院　医師
	武幸子		九州大学医学研究院　／医師

【科目のねらい】

対象に身体的・精神的な障害がおこった場合、どのような健康状態におかれているかを理解し、健康レベルに応じた看護を実践することが重要です。対象の反応からどのような健康状態におかれているか臨床判断していくための基礎知識として、各器官の代表的な健康障害について、症状とその病態生理、検査、治療をこの科目で学んでいきます。解剖生理学で学んだ知識（正常な人体の構造と機能）と連動させましょう。

【目的】各器官（内分泌・代謝系、脳神経系）の健康障害について症状とその病態生理・検査・治療を学び、健康レベルや機能障害に応じた看護を実践できる基礎を養う。

【到達目標】

1. 内分泌・代謝系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。
2. 脳神経系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	10/3	1	1	内分泌・代謝系の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理	講義　演習 ポストテスト（3）	川浪大治
2	10/3	2	2	内分泌・代謝系の健康障害と人間の反応：検査	講義　演習 ポストテスト（3）	
3	10/9	1	1	内分泌系の健康障害と人間の反応：疾患の理解 視床下部―下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患、多発性内分泌腫瘍症	講義　演習 ポストテスト（3） ×２	髙士祐一
4	10/9	2	2			
5	10/10	1	1	代謝系の健康障害と人間の反応：疾患の理解 糖尿病、脂質異常症、肥満症とメタボリックシンドローム、尿酸代謝異常	講義　演習 ポストテスト（3） ×２	川浪大治
6	10/10	2	2			
7	10/16	1	1	内分泌・代謝系の健康障害と人間の反応：学習のまとめ （病態関連図；Ⅰ型糖尿病/Ⅱ型糖尿病）	演習 課題レポート （5）	髙士祐一
8	10/10	3	3	脳神経系の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理	講義　演習 ポストテスト（４）	武幸子
9	10/10	4	4	脳神経系の健康障害と人間の反応：　検査・診断と治療・処置	講義　演習 ポストテスト（3）	
10	10/17	3	3		講義　演習 ポストテスト（3）	

<table>
<tr><td>11</td><td>10/17</td><td>4</td><td>4</td><td rowspan="4">脳神経系の健康障害と人間の反応：疾患の理解
脳疾患（クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳腫瘍、頭部外傷）
末梢神経障害、顔面神経麻痺、筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発性硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、脳・神経系の感染症、てんかん、認知症</td><td rowspan="4">講義　演習
ポストテスト（3）
×４
（11,12,13,
14 回目）</td><td rowspan="5">武幸子</td></tr>
<tr><td>12</td><td>10/24</td><td>1</td><td>1</td></tr>
<tr><td>13</td><td>10/24</td><td>2</td><td>2</td></tr>
<tr><td>14</td><td>10/31</td><td>3</td><td>3</td></tr>
<tr><td>15</td><td>10/31</td><td>4</td><td>4</td><td>脳神経系の健康障害と人間の反応：学習のまとめ（病態関連図；脳梗塞/クモ膜下出血）</td><td>演習
課題レポート
（5）</td></tr>
<tr><td colspan="4">11 月 13 日（水）1 限目</td><td>筆記試験</td><td></td><td></td></tr>
</table>

【準備学習内容】

解剖生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。人体の構造と機能は理解した上で授業は進んでいきます。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

わからない語句について調べておきましょう。

課題レポート：７回目までに、Ⅰ型糖尿病/Ⅱ型糖尿病の病態関連図を作成し持参して下さい。７回目の授業終了後、提出となります。

１５回目までに、脳梗塞/クモ膜下出血の病態関連図を作成し持参して下さい。１５回目の授業終了後、提出となります。

動画視聴：「目で見る病気」：内分泌・代謝疾患、脳血管障害、がん（特異性、脳腫瘍）を動画視聴しておいてください。

【使用するテキスト】

吉岡成人他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学６　内分泌・代謝　医学書院　2024

井出隆文他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学７　脳・神経　医学書院　2024

竹田津文俊編　説明できる病態生理　解剖・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2019

阿部俊子監修　　エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図　第３版　中央法規　2023

【参考文献】

病気がみえるシリーズ　ｖｏｌ．３　糖尿病・代謝・内分泌　ｖｏｌ．７　脳・神経　　メディックメディア

石川ふみよ他監修　疾患別看護過程の展開　第６版　学研メディカル秀潤社　2020

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（40 点）、課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（10 点）、筆記試験（50 点）

川浪大治：ポストテスト（12 点）　筆記試験（15 点）

髙士祐一：ポストテスト（6 点）　課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5 点）　筆記試験（10 点）

武幸子：ポストテスト（22 点）　課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5 点）筆記試験（25 点）

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.24

分　野	専門基礎分野	科　目	疾病と治療Ⅳ（運動器系、感覚器系、免疫系）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年全期

講師名		所属および実務経験	
	王寺享弘		福岡整形外科病院　理事長／医師
	武幸子		九州大学医学研究院　／医師
	蒲地徹		桜十字福岡病院／医師

【科目のねらい】

対象に身体的・精神的な障害がおこった場合、どのような健康状態におかれているかを理解し、健康レベルに応じた看護を実践することが重要です。対象の反応からどのような健康状態におかれているか臨床判断していくための基礎知識として、各器官の代表的な健康障害について、症状とその病態生理、検査、治療をこの科目で学んでいきます。解剖生理学で学んだ知識（正常な人体の構造と機能）と連動させましょう。

【目的】各器官（運動器系、感覚器系、免疫系）の健康障害について症状とその病態生理・検査・治療を学び、健康レベルや機能障害に応じた看護を実践できる基礎を養う。

【到達目標】

1. 運動器系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。
2. 感覚器系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。
3. 免疫系の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	9/11	2	2	運動器系の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理	講義　演習 ポストテスト（3）	王寺享弘
2	9/18	1	1	運動器系の健康障害と人間の反応：診断・検査と治療・処置	講義　演習 ポストテスト（3）	
3	9/18	2	2	運動器系の健康障害と人間の反応：疾患の理解 骨折、脱臼、脊髄損傷、末梢神経損傷、変形性関節症、腫瘍、骨粗鬆症、腰部脊柱管 狭窄症、椎間板ヘルニア	講義　演習 ポストテスト（3） ×2（3,4 回目）	
4	9/25	1	1			
5	9/25	2	2	運動器系の健康障害と人間の反応：学習のまとめ（病態関連図；骨折/末梢神経麻痺）	演習 課題レポート （5）	
6	11/7	3	3	感覚器系の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理、検査と治療・処置	講義　演習 ポストテスト（3）	武幸子
7	11/7	4	4	感覚器系の健康障害と人間の反応：眼の疾患の理解 機能の障害、網膜・硝子体の疾患、水晶体の疾患、緑内障	講義　演習 ポストテスト（3）	
8	11/14	3	3	感覚器系の健康障害と人間の反応：　症状とその病態生理、検査と治療	講義　演習 ポストテスト（3）	
9	11/14	4	4	感覚器系の健康障害と人間の反応：　耳鼻咽喉の疾患の理解 中耳炎、メニエール病、副鼻腔炎、咽頭炎、扁桃炎、頭頸部がん、音声・言語障害	講義　演習 ポストテスト（3）	
10	11/21	1	1	感覚器系の健康障害と人間の反応：症状とその病態生理、検査と治療・処置	講義　演習 ポストテスト（3）	

11	11/21	2	2	感覚器系の健康障害と人間の反応：皮膚の疾患の理解 湿疹、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、乾癬、皮膚腫瘍、帯状疱疹、疥癬	講義　演習 ポストテスト（3）	
12	11/1	3	3	アレルギー系疾患の健康障害と人間の反応：診断・検査と治療 症状と疾患の理解：アレルギー性鼻炎・結膜炎、アナフィラキシー、食物・薬物アレルギー	講義　演習 ポストテスト（3）	蒲地徹
13	11/1	4	4	膠原病患者の健康障害と人間の反応：自己免疫疾患とその機序、症状とその病態生理検査と治療 疾患の理解：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群	講義　演習 ポストテスト（3）	
14	11/15	3	3	感染症患者の健康障害と人間の反応：感染症とは、検査・診断、治療 疾患の理解：菌血症・敗血症、真菌感染症、HIV 感染症、多剤耐性菌感染症	講義　演習 ポストテスト（3）	
15	11/15	4	4	アレルギー膠原病感染症の健康障害と人間の反応： 学習のまとめ（病態関連図；全身性エリテマトーデス/関節リウマチ）	講義　演習 ポストテスト（3） 課題レポート （5）	
12 月 7 日（土）1 限目				筆記試験		

【準備学習内容】

解剖生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。人体の構造と機能は理解した上で授業は進んでいきます。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

わからない語句について調べておきましょう。

課題レポート：５回目までに、骨折/末梢神経麻痺の病態関連図を作成し持参して下さい。５回目の授業終了後、提出となります。

１５回目までに、全身性エリテマトーデス/関節リウマチの病態関連図を作成し持参して下さい。

１５回目の授業終了後、提出となります。

動画視聴：「目で見る病気」：免疫疾患、がん（特異性、皮膚がん・骨・軟部腫瘍）、感染症を動画視聴しておいてください。

【使用するテキスト】

田中栄他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学 10　運動器　医学書院　2024

大鹿哲郎他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学 13　眼　医学書院　2024

小松浩子他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学 14　耳鼻咽喉　医学書院　2024

渡辺晋一他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学 12　皮膚　医学書院　2024

岩田健太郎他著　系統看護学講座　専門分野　成人看護学 11　アレルギー　膠原病　感染症　医学書院　2024

竹田津文俊編　説明できる病態生理　解剖・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2018

阿部俊子監修　エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図　第３版　中央法規　2023

【参考文献】

病気がみえるシリーズ　ｖｏｌ．11　運動器・整形外科　ｖｏｌ．１２　眼科　ｖｏｌ．１３耳鼻咽喉科　メディックメディア

病気がみえるシリーズ　ｖｏｌ．１４　皮膚科　ｖｏｌ．６　免疫・膠原病・感染症　メディックメディア

石川ふみよ他　監修　疾患別看護過程の展開　第６版　学研メディカル秀潤社　2020

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（４２点）、課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（10 点）、筆記試験（４８点）

王寺亨弘：ポストテスト（12 点）　課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5 点）筆記試験（14 点）

武　幸子：ポストテスト（18 点）　筆記試験（20 点）

蒲地　徹：ポストテスト（12 点）　課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5 点）　筆記試験（14 点）

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.25

分　野	専門基礎分野	科　目	疾病と治療Ｖ（子どもの健康障害、精神障害）		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	１単位 30 時間（15 回）	配当時期	１年後期

講師名		所属および実務経験	
	永利義久		ながとし小児科　院長／医師
	深町滋		奈多こどもファミリークリニック　院長／医師
	川口貴子		福岡市精神保健福祉センター　所長／医師
	古里百合子		福岡市精神保健福祉センター／精神保健福祉士

【科目のねらい】

対象に身体的・精神的な障害がおこった場合、どのような健康状態におかれているかを理解し、健康レベルに応じた看護を実践することが重要です。対象の反応からどのような健康状態におかれているか臨床判断していくための基礎知識として、各器官の代表的な健康障害について、症状とその病態生理、検査、治療をこの科目で学んでいきます。解剖生理学で学んだ知識（正常な人体の構造と機能）と連動させましょう。

【目的】各器官の健康障害（子どもの健康障害、精神障害）について症状とその病態生理・検査・治療を学び、健康レベルや機能障害に応じた看護を実践できる基礎を養う。

【到達目標】

1. 子どもにみられる各器官の健康障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。
2. 精神障害について症状とその病態生理、検査、治療を関連づけて説明することができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	１組	２組	学習内容	方法	備考
1	11/6	3	3	子どもの健康障害：染色体異常、代謝性疾患（糖尿病等）内分泌疾患（先天性代謝異常尿崩症、下垂体性小人症等）	講義　演習 ポストテスト（3）	永利義久
2	11/6	4	4	子どもの健康障害：消化器疾患（口唇口蓋裂、幽門狭窄症、腸重積症、 腸閉塞・イレウス、ヒルシュスプルング病、ヘルニア、胆道閉鎖症、鎖肛等）	講義　演習 ポストテスト（3）	
3	11/13	3	3	子どもの健康障害：腎・泌尿器疾患（急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、ウィルムス腫瘍等）血液・造血器疾患（貧血、血友病、血小板減少性紫斑病等）悪性新生物（白血病、神経芽腫等）	講義　演習 ポストテスト（3）	
4	11/13	4	4	子どもの健康障害：神経疾患（てんかん、熱性けいれん、脳性麻痺、筋ジストロフィー、髄膜炎、水頭症、脳腫瘍、頭部外傷等）精神疾患（発達遅滞、発達障害、学習障害等）皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患	講義　演習 ポストテスト（3）	
5	11/21	3	3	子どもの健康障害：感染症（麻疹、風疹、突発性発疹、水痘、手足口病、感染性嘔吐下痢症、百日咳、ジフテリア等）呼吸器疾患（気管支炎、クループ症候群、肺炎等）	講義　演習 ポストテスト（3）	深町滋
6	11/21	4	4	子どもの健康障害：免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患（小児気管支喘息、アトピー性皮膚炎、若年性関節リウマチ等）事故・外傷	講義　演習 ポストテスト（3）	
7	12/5	3	3	子どもの健康障害：循環器疾患（先天性心疾患、川崎病、乳幼児突然死症候群、小児期におけるメタボリックシンドローム等）	講義　演習 ポストテスト（3）	
8	12/5	4	4	子どもの健康障害：運動器疾患（先天性股関節脱臼、小児の骨折等） 学習のまとめ（病態関連図；気管支喘息/感染性嘔吐下痢症）	講義　演習 ポストテスト（3） 課題レポート （5）	

9	11/12	1	1	精神を病むことと生きること：①「病いの経験」の理解への手がかり②さまざまな病気の説明の仕方をさぐる③看護と精神医学の広がり 精神症状論と状態像の理解：１）思考の障害　２）感情の障害　３）意欲の障害　４）知覚の障害５）意識の障害　６）記憶の障害　７）局在症状	講義　演習 ポストテスト（3）	川口貴子
10	11/12	2	2	精神障害の診断と分類： １）統合失調症　２）気分（感情）障害 ３）神経症性障害、ｽﾄﾚｽ関連障害および身体表現性障害	講義　演習 ポストテスト（3） ×　2	
11	11/19	1	1			
12	11/19	2	2	精神障害の診断と分類： ４）精神作用物質使用による精神および行動の障害 ５）各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調　６）その他	講義　演習 ポストテスト（3） ×　2	
13	11/26	1	1			
14	11/26	2	2	精神科における治療： １）薬物療法・電気けいれん療法２）精神療法３）集団精神療法４）家族療法 ５）環境療法・社会療法 学習のまとめ（病態関連図；統合失調症/うつ病）	講義　演習 ポストテスト（3） 課題レポート （5）	
15	12/2	3	3	おもな精神保健医療福祉対策とその動向	講義　演習 ポストテスト（3）	古里百合子
12 月 20 日（金）1 限目				筆記試験		

【準備学習内容】

解剖生理学の学習を活用できるように復習しておきましょう。人体の構造と機能は理解した上で授業は進んでいきます。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

わからない語句について調べておきましょう。

課題レポート：８回目までに、気管支喘息/感染性嘔吐下痢症の病態関連図を作成し持参して下さい。８回目の授業終了後、提出となります。

１４回目までに、統合失調症/うつ病の病態関連図を作成し持参して下さい。１４回目の授業終了後、提出となります。

動画視聴：「目で見る病気」：先天異常と遺伝子異常を動画視聴しておいてください。

「精神疾患・障害の基礎知識」の動画を視聴しておいてください。

【使用するテキスト】

奈良間美保他著　系統看護学講座　専門分野　小児看護学２　小児臨床看護各論　医学書院　2024

武井麻子他著　系統看護学講座　専門分野　精神看護学１　精神看護の基礎　医学書院　2024

竹田津文俊編　説明できる病態生理　解剖・疾患・アセスメントにつながる！　学研メディカル秀潤社　2019

阿部俊子監修　エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図　第３版　中央法規　2023

浅野みどり他編　発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図　第４版　医学書院　2021

【参考文献】

石川ふみよ他監修　疾患別看護過程の展開　第６版　学研メディカル秀潤社　2020

ニュートン別冊　精神科医が語る精神の病気　増補第２版　ニュートンプレス　2021

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（45 点）、課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（10 点）、筆記試験（45 点）

永利義久：ポストテスト（12 点）　筆記試験（12 点）

深町　滋：ポストテスト（12 点）　課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5 点）筆記試験（12 点）

川口貴子：ポストテスト（18 点）　課題レポート（病態関連図）を含む演習への取り組み・成果（5 点）筆記試験（18 点）

古里百合子：ポストテスト（3 点）　筆記試験（3 点）

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

科目 No.26

分　野	専門基礎分野	科　目	微生物学		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期
講師名	長浦善一郎	所属および実務経験	医療法人豊資会 加野病院/医師		

【科目のねらい】

人類は紀元前からさまざまな感染症と戦ってきました。人類を脅かす感染症は現在もパンデミック（世界的大流行）を引き起こしています。新たな感染症（新興感染症）や再興感染症が問題となっています。感染症をなくすことは難しいですが、早期に治療し症状を軽減させ、流行を拡大させないように予防することは非常に重要なことです。感染に関するニュース等に興味・関心を持ち、病原体がどのようにして感染症につながり人々を脅かすのか理解していきましょう。この科目では、病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）の性質と、宿主の抵抗力としての免疫機能に関する知識を習得の上、両者のバランスによって発症する感染症の理解や滅菌・消毒およびワクチンなど感染症の予防法について理解していく機会としていきましょう。

また、日常診療で出会う感染症について基礎知識を持つこと、更に知らない感染症であっても検索の力で立ち向かってほしいと思っています。

【目的】病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、原虫）の性質、微生物感染のメカニズム、経過、環境因子を理解するとともに、感染症の予防法について基本的な知識を養う。

【到達目標】

1. 病原微生物の種類・特徴を説明することができる。
2. 宿主の防御機構や免疫の役割について説明することができる。
3. 滅菌・消毒およびワクチンなどによる感染症の予防法の概略を説明することができる。
4. 感染症の流行など情報を得て危機管理を行い、自己の健康管理をすることができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	10/8	3	3	微生物学の基礎；微生物と微生物学、細菌の性質	講義　演習	
2	10/8	4	4	微生物学の基礎；真菌の性質、原虫の性質、ウイルスの性質	講義　演習	
3	10/22	3	3	微生物学の基礎；　学習のまとめ	演習 ポストテスト（5）	
4	10/22	4	4	感染とその防御；感染と感染症	アクティブラーニング 課題レポート（5）	
5	10/29	4	4	感染とその防御；感染に対する生体防御機構（自然免疫、獲得免疫）	講義　演習 ポストテスト（5）	
6	11/5	3	3	感染とその防御；感染源・感染経路からみた感染症、滅菌と消毒	アクティブラーニング 課題レポート（5）	
7	11/5	4	4	感染とその防御；感染症の検査と診断、感染症の治療	講義　演習 ポストテスト（5）	
8	11/12	3	3	感染とその防御；感染症の現状と対策（院内感染、ワクチン）	アクティブラーニング 課題レポート（5）	
9	11/12	4	4	感染とその防御；学習のまとめ	演習 ポストテスト（5）	
10	11/19	3	3	おもな病原微生物；病原細菌と細菌感染症	アクティブラーニング 課題レポート（5）	
11	11/19	4	4		講義　演習 ポストテスト（5）	
12	12/3	3	3	おもな病原微生物；　病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症	アクティブラーニング 課題レポート（5）	

13	12/3	4	4	おもな病原微生物； 病原ウイルスとウイルス感染症	講義 演習 課題レポート（5）	
14	12/10	3	3			
15	12/10	4	4	おもな病原微生物；学習のまとめ	演習 ポストテスト（5）	
12 月 24 日（火）1 限目				筆記試験		

【準備学習内容】

アクティブラーニングの課題に関して、テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

（１、２、３講義までは通常形式での座学の授業を行います。４講義目以降からは３限目に PBL（ProblemBasedLerning）形式でのアクティブラーニング、４限目に通常の講義とする予定）

アクティブラーニングのシナリオ冒頭（Problem)は前週の４限目の授業中に提示します。この内容を踏まえて軽く予習してきて下さい。予習してきた内容をもとに翌週３限目のグループワーク開始です。グループワーク開始後はそれぞれが何を問題と感じてどんな情報を調べたか、更なる問題点は何かをディスカッションして下さい。その後シナリオを追加しながらさらなる検索や議論を深めていく流れとなります。最終的には調べた内容を１枚にまとめて下さい。まとめは用紙で提出して下さい。採点対象とします。

【使用するテキスト】

吉田眞一他著 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院 2024

【参考文献】

小田紘著 ビジュアル微生物学 ヌーヴェルヒロカワ 2012

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（30 点）、課題レポート（アクティブラーニングのまとめ）を含む演習への取り組み・成果（30 点）

筆記試験（40 点）

課題レポート（アクティブラーニングのまとめ）は指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。

科目 No.27

分　野	専門基礎分野	科　目	臨床検査		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年全期
講師名	井上隆司	所属および実務経験	福岡大学医学部　名誉教授／医師		
	林田美香		専任教員／看護師		

【科目のねらい】

確実な診断や経過の観察をするうえで臨床検査は欠かすことはできません。しかし、検査を受ける対象が検査の目的や必要性を理解しなければ検査は困難となります。臨床検査は多職種がかかわっていますが、看護師は対象の理解度や受け止め方を確認しながら目的や必要性を説明し、正確・安全・安楽に検査が行われるよう看護を実践することが重要です。また、検査から得られた情報と対象の現状を対照し、臨床判断しながら看護を実践することも重要です。この科目では、臨床検査の意義や目的、検査方法など臨床検査の基礎知識や検査における看護師の役割について理解していきましょう。

【目的】臨床検査の基礎知識や検査における看護師の役割を学び、検査から得られた情報と対象の現状を対照し臨床判断できる基礎的能力と安全・安心・安楽な看護実践の基礎を養う。

【到達目標】

1．診療における臨床検査の役割・種類・目的と測定値に影響を与える因子について説明することができる。
2．おもな臨床検査の意義や目的、検査方法を説明することができる。
3．おもな臨床検査における看護師の役割（説明、介助方法、注意点）を述べることができる。
4．演習において、原理原則に基づき、検査に伴う看護を実践することができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	7/18	1		臨床検査とその役割：診療における臨床検査の役割・種類・目的と結果の評価	講義 ポストテスト（3）	林田美香
2	7/18	2		臨床検査の流れと看護師の役割、臨床現場即時検査(POCT) ※2023.11 章として追加	講義 ポストテスト（3）	
3	7/22	2		臨床検査の基礎知識：一般検査、血液学的検査	講義 ポストテスト（5）	井上隆司
4	7/22	3		臨床検査の基礎知識：化学検査、免疫・血清学的検査	講義 ポストテスト（5）	
5	7/22	4		臨床検査の基礎知識：　内分泌学的検査	講義 ポストテスト（5）	
6	10/15	4		検体検査の実際：採尿・採血・髄液検査 患者および検体からの感染の予防、針刺しなどによる血液曝露 （15 章より移動。採血演習前に学ぶ必要あり）	講義 ポストテスト（3）	林田美香
7	10/16		1	検体検査の実際：採尿・採血・腰椎穿刺	演習	
	10/17	1				
8	10/16		2	検体検査の実際：採尿・採血・腰椎穿刺	演習 課題レポート(10)	
	10/17	2				
9	10/22	3		臨床検査の基礎知識：微生物学的検査、病理学的検査	講義 ポストテスト（5）	井上隆司
10	10/22	4		臨床検査の基礎知識：生体検査（心電図、スパイロメトリー、脳波、筋電図等）	講義 ポストテスト（5）	

11	10/29	3		臨床検査の基礎知識：画像検査（Ｘ線、超音波、ＣＴ、MRI、核医学検査）	講義 ポストテスト（5）	井上隆司
12	10/29	4		臨床検査の基礎知識：内視鏡検査、 IVR・血管造影	講義 ポストテスト（5）	
13	10/24	2		臨床検査の基礎知識：生体検査に伴う看護	講義 ポストテスト（3）	林田美香
14	10/28	3	2	生体検査の実際：生理機能検査（心電図）	演習	
15	11/5	3		臨床検査の基礎知識：生体検査に伴う看護 放射線被爆防止	講義　演習 ポストテスト（3） 課題レポート(5)	
11 月 11 日(月)				終了試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

検査内容と「疾病と治療」で学んだ知識を連動させましょう。

課題レポート： ６回目～８回目の演習では、看護技術（採尿・採血）のチェックリストを作成しておきましょう。演習時に使用します。チェックリストは授業終了後、提出となります。基礎看護技術Ⅱのテキスト巻末にあるQRコード（静脈血採血）を読み取り動画を視聴しイメージ化を図っておきましょう。

動画視聴：「目で見る臨床検査」：Vol.一般検査、Vol. 2 血液学検査、Vol. 3 血液生化学検査、Vol. 4 代謝・内分検査

「実践！看護技術シリーズ」：検査時の看護Ⅰ、検査時の看護Ⅱの動画を視聴しておきましょう。授業前後の自己学習に活用してください。

【使用するテキスト】

奈良信雄他編　系統看護学講座　別巻　臨床検査　医学書院　2024

尾尻博也他著　系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　医学書院　2024

香春知永他著　系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[4]　臨床看護総論　医学書院　2024

任和子他著　系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ　医学書院　2024

近藤一郎他監　看護がみえる②　臨床看護技術　メディックメディア　2022

【参考文献】

林陸郎著　看護学生のための臨床検査　第２版　メヂカルフレンド社　2015

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（50 点）、課題レポートを含む演習への取り組み（15 点）、筆記試験（35 点）

井上隆司先生：ﾎﾟｽﾄﾃｽﾄ（35 点）、筆記試験（15 点）

林田美香先生：ﾎﾟｽﾄﾃｽﾄ（15 点）、演習取組（15 点）、筆記試験（20 点）

課題レポート・チェックリスト及び技術の動画は指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

到達レベル　演習Ⅰ：検体（尿、血液等）の取り扱い、検査の介助、放射線の被ばく防止策の実施

到達度の確認は、以下のいずれかで行う。詳細は別紙参照。

演習中の技術確認、チェックリストを活用したグループ学習の自己評価と他者評価の提出。

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

チェックリストを用いて自己評価を行ないながら技術練習していきましょう。指定された技術の動画を提出してもらい技術の到達度を確認します。

科目 No.28

分　野	専門基礎分野	科　目	リハビリテーション		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期
講師名	山﨑博喜	所属および実務経験	恵光会原病院／理学療法士		
	永田英子		泯江堂　三野原病院　教育担当師長／ 専任教員養成講習会修了・看護師 特定看護師（栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）		

【科目のねらい】

我が国の高齢化はますます深刻化し、さらに若くして事故や疾病によって機能障害を抱えながら生活する人も増加しています。対象が、疾病や障害をもちながらも、「その人らしく生きること」を支援しＱＯＬ向上を目指すことに、リハビリテーションが果たす役割は非常に重要です。

リハビリテーションの概念と実際について学ぶとともに、リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性さらに看護師の役割について理解していきましょう。

【目的】リハビリテーションの概念と実際について学び、対象のＱＯＬの向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護の基礎を養う。

【到達目標】

1. リハビリテーションの概念について説明することができる。
2. 演習を通して、各器官系の障害について必要なリハビリテーションを実践することができる。
3. リハビリテーションにおけるチームアプローチの重要性と看護師の役割について述べることができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	11/11	3	3	リハビリテーション概論：リハビリテーションの定義と理念、対象と制度、疾病・障害・生活機能の分類、リハビリテーションの分野、 リハビリテーション医療の提供	講義 ポストテスト（3）	山﨑博喜
2	11/11	4	4	リハビリテーション看護概論：リハビリテーション看護の定義と専門化、 リハビリテーション看護の対象、リハビリテーション看護の方法	講義 ポストテスト（6）	永田英子
3	11/18	4	4	機能別リハビリテーション：運動器系の障害とリハビリテーション	講義 ポストテスト（3）	山﨑博喜
4	12/4	3		機能別リハビリテーションの実際：運動器系の理学療法 関節可動域運動、筋力増強運動、立ち上がり練習・歩行練習　等	演習 ポストテスト（3） ×2	
	12/12		3			
5	12/4	4				
	12/12		4			
6	12/20	3	3	機能別リハビリテーション：呼吸器系の障害とリハビリテーション	講義 ポストテスト（3）	
7	12/20	4	4	機能別リハビリテーションの実際： 息苦しさを和らげる日常の動作、呼吸法、排痰法、運動療法	演習 ポストテスト（3）	
8	12/26	3	3	機能別リハビリテーション：循環器系の障害とリハビリテーション	講義 ポストテスト（3）	
9	12/26	4	4	機能別リハビリテーションの実際：心臓リハビリテーション（運動療法）	演習 ポストテスト（3）	
10	1/9	3	3	機能別リハビリテーション：中枢神経系の障害とリハビリテーション	講義 ポストテスト（3）	
11	1/9	4	4	機能別リハビリテーションの実際：中枢神経系の理学療法 疾患に応じた運動療法、物理療法、日常生活活動(ADL)訓練	演習 ポストテスト（3）	

12	1/28	3	3	機能別リハビリテーションの実際：中枢神経系の作業療法 手指・上肢機能訓練、高次脳機能障害へのアプローチ、生活関連動作訓練、環境調整	演習 ポストテスト（3）	山﨑博喜
13	1/28	4	4	機能別リハビリテーションの実際：中枢神経系の言語聴覚療法（摂食・嚥下障害含む）	演習 ポストテスト（3）	
14	2/4	3	3	機能別リハビリテーション：感覚器系の障害とリハビリテーション（視覚障害、聴覚障害）	講義 ポストテスト（3）	
15	2/7	2	1	学習のまとめ： 演習；脳梗塞の事例を通して、どのような看護を実践するか、また多職種との連携における看護師の役割について考えてみよう。	演習 課題レポート （5）	永田英子
2 月 17 日（月）1 限目				筆記試験		

【準備学習内容】

解剖生理学や疾病と治療の学習を活用できるように復習しておきましょう。

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

演習にむけて、テキスト巻末にある QR コードを読み取り動画を視聴しイメージ化を図っておきましょう。

課題レポート：15 回目の演習は、事例からリハビリテーション看護を実践します。グループで事前に計画立案はしておきましょう。必要であれば事前に自助具も作成してみましょう。計画立案レポートは授業終了後、提出となります。

動画視聴：「リハビリテーション医学」：このシリーズの動画は授業前後の自己学習に活用してください。

【使用するテキスト】

武田宜子他著　系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院　2024

熊谷たまき他監　看護がみえる③　フィジカルアセスメント　メディックメディア　2023

【参考文献】

奥宮暁子他編　ナーシング・グラフィカ　成人看護学⑤　リハビリテーション看護　メディカ出版　2024

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（45 点）、計画立案レポートを含む演習への取り組み・成果（ 5 点）、筆記試験（50 点）

山﨑博喜：ポストテスト（39 点）　筆記試験（43 点）

永田英子：ポストテスト（6 点）　課題レポートを含む演習への取り組み・成果（5 点）筆記試験（7 点）

課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行なっていきましょう。

実習室での演習時は、必ず規定の服装・身だしなみを整えて受講すること

科目 No.29

分　野	専門基礎分野	科　目	薬理学		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期
講師名	岩崎克典	所属および実務経験	福岡大学薬学部　教授／薬剤師		

【科目のねらい】

薬物療法において、チーム医療による看護師・医師・薬剤師の連携が、安全かつ有効な医療をもたらし、患者の早期回復につながります。看護師が、薬理作用・副作用を観察することは重要な役割であり、医師や薬剤師が治療方針や調剤方法を変更するきっかけとなります。このような役割を十分に果たすために、この科目で、薬物が生体にどのような影響をおよぼすのか、生体と薬物の相互作用について学習し、薬物の種類、性質、特徴、作用機序、薬理作用、副作用について習得しましょう。また代表的な疾患の薬物療法について学び、薬物療法を受ける対象の看護に必要な基礎的知識についても習得しましょう。

【目的】生体と薬物の相互作用や薬物療法を受ける対象の看護に必要な基礎的知識を養う。

【到達目標】

1. 薬物が人体に作用するしくみについて説明することができる。
2. 健康障害に対する薬物療法の作用機序、代表的な薬物について説明することができる。
3. 薬物の人体への影響について説明することができる。
4. 薬物療法におけるチーム医療の必要性について述べることができる。

【DP との関連】

DP３　対象の反応から臨床判断し、健康レベルに応じた看護を科学的根拠に基づき実践することができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	11/28	1	1	薬理学を学ぶにあたって 薬理学の基礎知識：薬が作用するしくみ、薬の体内動態、薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子、薬物使用の有益性と危険性、薬と法律	講義　演習 ポストテスト（3）	
2	12/12	1	1	末梢での神経活動に作用する薬物 1.　交感神経作用薬、交感神経遮断薬、薬理作用と副作用	講義　演習 ポストテスト（3）	
3	12/12	2	2	2．副交感神経作用薬、副交感神経遮断薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬、薬理作用と副作用	講義　演習 ポストテスト（3）	
4	12/26	1	1	中枢神経系に作用する薬物 １．全身麻酔薬 ２．不眠症の種類と催眠薬	講義　演習 ポストテスト（3）	
5	12/26	2	2	３.統合失調症治療薬、定型抗精神病薬、非定型抗精神病薬、薬理作用と副作用 不安症の基礎知識と抗不安薬、薬理作用と副作用	講義　演習 ポストテスト（3）	
6	1/9	1	1	４.抗うつ薬と気分安定薬、抗パーキンソン病薬、薬理作用と副作用	講義　演習 ポストテスト（3）	
7	1/9	2	2	５.抗てんかん薬、片頭痛治療薬、薬理作用と副作用	講義　演習 ポストテスト（3）	
8	1/30	1	1	循環器系に作用する薬物 1.　高血圧と降圧薬、血管拡張薬、レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系抑制薬、交感神経抑制薬、利尿薬、薬理作用と副作用、高齢者の高血圧に対する薬物療法	講義　演習 ポストテスト（3）	

9	1/30	2	2	2.狭心症治療薬、心筋梗塞治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、脂質異常症治療薬、薬理作用と副作用	講義　演習 ポストテスト（3）	
10	2/10	3	3	呼吸器系に作用する薬物 鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬、麻薬性鎮咳薬、抗アレルギー薬、気管支拡張薬、気管支喘息治療薬、抗インフルエンザ薬、COPD 治療薬	講義　演習 ポストテスト（3）	
11	2/10	4	4	消化器系に作用する薬物 消化性潰瘍治療薬、過敏性腸症候群治療薬、潰瘍性大腸炎治療薬、クローン病の治療 薬、薬理作用と副作用	講義　演習 ポストテスト（3）	
12	2/14	1	1	物質代謝に作用する薬物 １．１型糖尿病とインスリン製剤、２型糖尿病と血糖降下薬、インスリン分泌促進薬、インスリン抵抗性改善薬、糖吸収阻害薬、インクレチン関連薬、SGLT2 阻害薬、薬理作用と副作用	講義　演習 ポストテスト（3）	
13	2/14	2	2	抗アレルギー薬・抗炎症薬、脂質異常症、高尿酸血症治療薬、痛風発作治療薬、尿酸コントロール薬、薬理作用と副作用	講義　演習 ポストテスト（3）	
14	2/20	1	1	鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬、非ステロイド性鎮痛薬、薬理作用と副作用	講義　演習 ポストテスト（3）	
15	2/20	2	2	救急の際に使用される薬物 処方箋とは、医薬品添付文書の読み方、薬に関する単位 学習のまとめ	講義　演習 ポストテスト（3）	
２月 27 日（木）１限目				筆記試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

毎回、授業前に課題が提示されます。しっかり予習して授業に臨みましょう。

抗感染症薬・免疫治療薬・消毒薬は微生物学、輸血剤は基礎看護技術Ⅵ（与薬の援助）や領域横断：薬物療法と看護で学習します。

動画視聴：「目で見る薬理学入門」「薬の基礎知識」：このシリーズの動画は授業前後の自己学習に活用してください。

【使用するテキスト】

吉岡充弘他著　系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進３　薬理学　医学書院　2024

井上智子他編　系統看護学講座　別巻　臨床薬理学　医学書院　2024

講師が、講義ごとに疾患のなりたちと薬物治療について資料を配布する。

【参考文献】

古川裕之他編　ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち②　臨床薬理学　メディカ出版　2024

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（45 点）、筆記試験（55 点）

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。

講義は、簡単な動画等を用いて疾患を知り、治療薬を画像表示します。

科目 No.30

分　野	専門基礎分野	科　目	保健医療論		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	1 年前期
講師名	武幸子	所属および実務経験	九州大学医学研究院　／医師		

【科目のねらい】

皆さんが目指している看護職が働く場は、生きることと死ぬこと、喜びと悲しみ、希望と絶望が行き交う、人間味あふれる世界です。常に人々に寄り添い専門職としての役割を果たしていくことが求められます。

ここでは医療を学ぶ第一歩として、保健医療福祉の全体を見渡し、すべての教科につながる基礎を学ぶことで、将来看護を実践する心がまえを身につける機会としていきましょう。

【目的】保健医療福祉システムの全体像のイメージ化ができ、看護実践の場の特徴を踏まえて多職種連携し看護を実践していく基礎を養う。

【到達目標】

1. 「生きるとは」について自分のことばで述べることができる。
2. 医学と医療の歴史から今の時代に受け継がれる医療の本質について述べることができる。
3. 切れ目のないサポートの必要性と重要性について考察することができる。
4. 医療従事者の種類とその職種の役割及び連携の必要性について述べることができる。
5. 医療と社会について、その重要なポイントを列記することができる。
6. 保健・医療・福祉の課題を踏まえ、未来志向で考察することができる。

【DP との関連】

DP1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。

DP2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP 6　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	4/5	2	2	生きることと死ぬこと 生命を尊ぶ心、健やかに生きる、老いてこそ人生、おだやかに死ぬこと	講義　演習 ポストテスト（4）	
2	4/9	3	3	医学と医療 医学の歴史に学ぶ	講義 ポストテスト（4）	
3	4/9	4	4	保健・医療・介護 地域医療構想　医療の ICT 化 切れ目のないサポートの実現（保健・医療・福祉・介護の概要） 医療従事者の役割と多職種連携の意義 8 回目のグループワークに向けてのオリエンテーション	講義　演習 課題レポート（5） ポストテスト（4）× 3	
4	4/15	3	3			
5	4/15	4	4			
6	4/22	2	2	医療と社会 倫理・安全・個人情報保護と守秘義務	講義 ポストテスト（4）	
7	4/22	3	3	医療経済学と医療政策	講義 課題レポート（5） ポストテスト（6）	
8	4/22	4	4	日本の保健・医療・介護の課題と未来につなぐ対策 発表と共有、科目のまとめ	演習 講義 課題レポート（5）	
5 月 10 日（金）1 限目				筆記試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

事前に、講義を受ける予定の章にある 「医療者を志すあなたへ」を事前に読み、自分の考えをまとめて授業に臨みましょう。

課題レポート： 5 回目までに「医療従事者の種類とその職種の役割、多職種連携の意義」について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。5 回目でグループディスカッションしていきます。課題レポートは授業終了後、提出となります。

7 回目までに国民医療費について調べ、自分の考察を入れて事前にレポートにまとめておきましょう。7 回目でグループディスカッションしていきます。課題レポートは授業終了後、提出となります。

8 回目までに「日本の保健・医療・福祉の課題と未来につなぐ対策」についてグループで調べ学習を行い、8 回目授業で発表できるようまとめておきましょう。

【使用するテキスト】

康永秀生著 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 1 医療概論 医学書院 2024

【参考文献】

安藤雄一他監 公衆衛生がみえる メディックメディア 2022－2023

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（15 点）、筆記試験（55 点）

最終日にレポート試験のテーマを知らせます。試験と同じ取り扱いです。指定された日時までに提出してください。

指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。自己学習やグループ学習など学習スケジュールを立て、計画的・協調的に学習を行っていきましょう。自己学習時間を活用して、グループで協力しながら調べ学習や発表の準備を行っていきましょう。

科目 No.31

分　野	専門基礎分野	科　目	看護経済学		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 16 時間（8 回）	配当時期	3 年全期
講師名	原田喜代子	所属および実務経験	元九州中央病院看護部長／元認定看護管理者		

【科目のねらい】

わが国の健康水準は世界のトップレベルにあるが、一方で先進諸国に共通する医療費増大という課題を抱えています。

経済が社会生活に与える影響を理解し、医療・看護に関連する経済及び経済的諸問題と医療政策について学んでいきましょう。さらに、わが国の医療保険制度の基本、診療報酬のしくみ、国民医療費とその財源、医療提供体制、医療・看護サービスの経済学的特殊性や評価、看護活動の経済的基盤などについても学び、看護サービスの質的課題について考えてみましょう。

【目的】医療・看護を経済的視点から考える基礎的能力を養う。

【到達目標】

1. 医療経済学・看護経済学の定義及び経済的視点から看護を考える意義について述べることができる。
2. 近年の保健医療福祉の政策の動向や制度改革等について述べることができる。
3. 医療の質の向上と経営の効率化に向けた保健医療制度や医療提供体制について述べることができる。
4. 経営の効率化を図るための看護サービスについて、その取り組み例を用いて説明することができる。
5. 看護サービスの経済的評価と課題について考察することができる。

【DP との関連】

DP4　対象のＱＯＬ（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

DP６　心身の健康管理能力及び社会人基礎力や情報活用能力を発展させ、看護の質の向上を目指し、自ら学び続ける姿勢を表現することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	9/2	3	3	看護経済学とは（看護経済学の概念図） 医療・看護に関する経済 国民医療費の変遷 公的医療保険制度について、諸外国の医療制度等との比較	講義 ポストテスト（4）	
2	9/2	4	4	日本の医療制度改革と実践における看護の関わり 日本の医療提供体制と特徴	講義 ポストテスト（4）	
3	9/9	3	3	介護報酬のしくみ 介護保険下における介護実践と各種の役割と対応	講義・演習 ポストテスト（4）	
4	9/9	4	4	在宅高齢者の健康支援体制 障がい者の健康支援体制	講義・演習 ポストテスト（4）	
5	9/17	3	3	診療報酬のしくみ 診療報酬制度における「看護料」等看護サービスの評価	講義 ポストテスト（4）	
6	9/17	4	4	病院の経済性と配置看護職員等による平均在院日数への影響	講義・演習 ポストテスト（4）	
7	9/24	3	3	医療・看護の質の改善と効率化を目指すクリニカルパス DPC、DRG/PPS と医療看護サービスの標準化	講義 ポストテスト（4）	
8	9/24	4	4	以下の視点でディスカッションする 「看護が追求する価値とは何か」 「看護の生産性が高いと評価できる視点」	演習 課題レポート（10）	
10 月 4 日（金）1 限目				試験		

【準備学習内容】

使用するテキストで関連するところを学習しておきましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

「介護保険と介護報酬のしくみ」「在宅高齢者と障がい者への健康支援体制」について復習しておきましょう。

8 回目までに下記の 2 つのテーマについては調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。8 回目の授業でディスカッションしていきます。また、課題レポート 8 回目授業終了後に提出してください。

1.「看護が追求する価値とは何か」について経済的視点から考察してみましょう。

2.「看護の生産性が高いと評価できる視点」について考察してみましょう。

【使用するテキスト】

神馬征峰他著　系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[2]　公衆衛生　医学書院　2024

福田素生他著　系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[3]　社会保障・社会福祉　医学書院　2024

安藤雄一他監　公衆衛生がみえる　メディックメディア　2022－2023

【参考文献】 2

尾形裕也著　看護管理者のための医療経営学　第 3 版　日本看護協会出版会　2021

金井 Pak 雅子著　説き語り　看護経済学入門　ライフサポート社　2019

小池智子他編　看護サービス管理　第 5 版　医学書院　2018

岩崎充孝著　スーパー図解　診療報酬のしくみと基本　メディカ出版　2022

鈴木俊一　DPC の基礎知識　社会保険研究所　2020

日本クリニカルパス学会監　そこが知りたいクリニカルパス　医学書院　2004

二本柳覚編　これならわかる＜スッキリ図解＞障害者総合支援法　第 3 版　翔泳社　2023

福井トシ子他編　診療報酬・介護報酬のしくみと考え方　第 6 版　日本看護協会出版会　2022

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（28 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（10 点）、筆記試験（62 点）

課題レポートは、指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

16 時間科目です。つまり自己学習が 29 時間となります。自己学習やグループ学習など学習スケジュールを立て、計画的・協調的に学習を行っていきましょう。

科目 No.32

分　野	専門基礎分野	科　目	公衆衛生		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	1 単位 30 時間（15 回）	配当時期	2 年前期
講師名	石田有紀	所属および実務経験	久留米大学文学部心理学科		

【科目のねらい】

臨床医学は個人の疾病が対象であるのに対し、公衆衛生は健康な人を含めた集団を対象としています。また、健康に悪影響を及ぼす環境や行動、社会的要因を取り除き健康障害を予防すること、さらには人々の健康増進と QOL 向上を目的に組織的な公衆衛生活動が行われています。看護師として、公衆衛生の動向や、地域社会における公衆衛生活動を理解することは重要です。地域、学校、職域における公衆衛生活動について理解を深め、地域とのつながりを意識した看護を実践できる力や健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う機会にしていきましょう。

【目的】公衆衛生の動向や地域社会における組織的な公衆衛生活動を理解し、地域とのつながりを意識した看護を実践できる力や健康づくりと疾病の予防に貢献できる基礎的知識を養う。

【到達目標】

1. 公衆衛生と健康の概念について説明することができる。
2. 疫学・保健統計から日本における保健医療や生活環境など取り巻く状況を把握し説明することができる。
3. 公衆衛生の活動対象と、地域社会における組織的な公衆衛生活動を理解し説明することができる。
4. 地域とのつながりを意識した看護実践や将来の健康づくりと疾病の予防に貢献する重要性について述べることができる。

【DP との関連】

DP2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。

DP４　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP５　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1組	2組	学習内容	方法	備考
1	4/13	1		公衆衛生を学ぶにあたって　公衆衛生のエッセンス 演習Ⅰ：新聞やニュースで取り上げられている公衆衛生に関する社会問題について 演習の成果を発表し共有する	講義　演習 課題レポート（5） ポストテスト（2）	
2	4/13	2		公衆衛生の活動対象	講義 ポストテスト（2）	
3	4/13	3		公衆衛生のしくみ	講義 ポストテスト（2）	
4	4/13	4		集団の健康をとらえるための手法―疫学・保健統計 演習Ⅱ：保健統計について	講義　演習 課題レポート（5） ポストテスト（2）	
5	5/11	1		環境と健康	講義 ポストテスト（2）	
6	5/11	2		感染症とその予防対策	講義 ポストテスト（2）	
7	5/11	3		地域における公衆衛生の実践；公衆衛生看護とは、 母子保健、成人保健、高齢者保健 演習Ⅲ：３つのテーマから１つ選択しグループで考察してみよう 演習の成果を発表し共有する	講義　演習 ポストテスト（各 2） 7.8 回 課題レポート（5） 8 回目	
8	5/11	4				
9	6/8	1		地域における公衆衛生の実践；精神保健、歯科保健、障害者保健・難病保健 演習Ⅳ：３つのテーマから１つ選択しグループで考察してみよう 演習の成果を発表し共有する	講義　演習 ポストテスト（各 2） 9.10 回 課題レポート（5） 10 回	
10	6/8	2				

11	6/8	3	学校と健康	講義 ポストテスト（2）	
12	6/8	4	国際保健	講義 ポストテスト（2）	
13	7/6	1	健康危機管理・災害保健 演習Ⅴ：災害保健について	講義　演習 ポストテスト（各 2） 13.14 回 課題レポート（5） 14 回	
14	7/6	2			
15	7/6	3	職場と健康 学習のまとめ	講義 ポストテスト（2）	
7 月 22 日(月)　1 限目			終了試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

動画視聴：学習内容と照合して「目で見る公衆衛生」の動画を視聴し理解を深めましょう。

課題レポート：「新聞やニュースで取り上げられている公衆衛生に関する社会問題」について、事前にレポートにまとめておきましょう。

1 回目に演習Ⅰでグループディスカッションしていきます。課題レポートは授業終了後、提出となります。

4 回目までに、わが国の最新の保健統計について調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめ、授業時に持参して下さい。

演習Ⅱで活用していきます。課題レポートは授業終了後、提出となります。

7 回目～14 回目は、演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴがあります。選択したテーマについて調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。

グループディスカッションしていきます。課題レポートは８回目・10 回目・14 回目の授業終了後、提出となります。

7～14 回目の演習では、すべてのテーマで学びの共有ができるように、均等にテーマを選択し準備してください。

章ごとに文末にゼミナール　復習と課題が提示されています。授業後に復習としてノートにまとめておきましょう。

【使用するテキスト】

神馬征峰他著　系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[2]　公衆衛生　医学書院　2024

安藤雄一他監　公衆衛生がみえる　メディックメディア　2022－2023

【参考文献】

佐々木明子他編　新体系　看護学全書　健康支援と社会保障制度②　公衆衛生学　ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社　2024

平野かよ子他編　ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障②　公衆衛生　メディカ出版　2024

国民衛生の動向　厚生労働統計協会（毎年発行。最新版参照）

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（30 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（25 点）、筆記試験（45 点）

課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。

科目 No.33

分　野	専門基礎分野	科　目	社会保障・社会福祉と連携		
必修・選択	必修	単位数 時間数（回数）	2 単位 30 時間（15 回）	配当時期	1 年後期
講師名	中野幹子	所属および実務経験	西日本短期大学　社会福祉学科教授 ／看護師・社会福祉士		

【科目のねらい】

本格的な少子高齢化社会を迎え、今日、医療と福祉のサービスは一体的に提供していくことが求められています。そのためには医療従事者と福祉関係者間の協力関係が不可欠であり、看護師も幅広い福祉の知識が必要です。ここでは、生活者の健康で幸福な生活を保障するための社会保障・社会福祉制度の基本的な構造や内容について学んでいきます。また制度の歴史的変遷から、今後の社会保障・社会福祉のあり方や専門職との連携・協働について考えを深めていきましょう。

【目的】健康で幸福な生活を保障するための社会保障・社会福祉制度の基本的な構造や内容について理解し、社会資源が活用できる基礎的知識を養う。

【到達目標】

1. 社会保障・社会福祉の諸制度や制度の内容について概要を列記することができる。
2. 制度の歴史的変遷から、今後の社会保障・社会福祉のあり方を考え述べることができる。
3. 多職種が協働して実践することの重要性について述べることができる。

【DP との関連】

DP 1　人々の様々な価値観を尊重したコミュニケーションを図り、より良い人間関係を築くことができる。

DP 2　看護専門職の役割と責務を自覚し、倫理的判断に基づく看護実践やリーダーシップを示すことができる。

DP 4　対象の QOL（Quality Of Life：生活の質）向上を目指し、対象の持てる力を活かした看護や安心・安全な生活を支援する看護を実践することができる。

DP5　多様な場で生活するあらゆる人々の健康に着目し、地域包括ケアシステム、チーム医療や多職種との連携・協働の視点を持ち看護を実践することができる。

【授業の流れ】（全体スケジュール・学習内容・方法等）

回	日程	1 組	2 組	学習内容	方法	備考
1	11/25	1	1	介護福祉実践と医療・看護；医療・看護・福祉の連携の実際 専門職連携協働（IPW）：介護福祉士との相互交流「自らが目指す職種の役割と活動」 交流を通して、介護福祉士の役割と活動を理解し、多職種連携・協働について考える。	演習 課題レポート（5）	専門職連携教育（IPE）
2	11/25	2	2			
3	12/9	3	3	社会資源とは、社会保障制度とは、社会福祉の法制度とは　ソーシャルキャピタル	講義 ポストテスト（4）	
4	12/9	4	4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向；自助・互助・共助・公助、地域共生社会	講義 ポストテスト（4）	
5	12/16	3	3	医療保障	講義　ポストテスト（4）× 2	
6	12/16	4	4			
7	12/25	1	1	介護保障	講義　ポストテスト（4）× 2	
8	12/25	2	2			
9	1/8	1	1	公的扶助・所得保障	講義 ポストテスト（4）	
10	1/8	2	2	１．社会福祉の分野とサービス；高齢者福祉 演習；事前課題で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 ２．社会福祉の分野とサービス；障害者福祉 ノーマライゼーション、ソーシャル・インクルージョン、社会のバリア（社会的障壁）除去 演習；事前課題で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。 ３．社会福祉の分野とサービス；児童家庭福祉	演習 課題レポート（5） ポストテスト（4）	

				演習；事前課題で調べたことをもとにグループメンバーで整理してみよう。		
11	1/29	1	2	演習の成果を発表し学びを共有する。	講義 ポストテスト（4）	
12	2/5	1	1	事例演習：社会福祉実践と医療・看護；医療・看護・福祉の連携の実際	演習	
13	2/5	2	2	社会福祉実践と医療・看護；医療・看護・福祉の連携の実際 演習；人工呼吸器をつけながら自立した在宅生活 どのような連携が可能であるか、調べ学習をもとに討議する	演習 課題レポート（5）	
14	2/12	2	1	社会福祉実践と医療・看護；演習の成果を発表し共有する	演習	
15	2/19	1	1	社会福祉の歴史 学習のまとめ	講義 ポストテスト（4）	
2 月 26 日（水）1 限目				筆記試験		

【準備学習内容】

テキストによる事前学習をしっかり行いましょう。テキスト学習を踏まえて授業は進んでいきます。

重要な箇所にはマーカーする、ディスカッション時に活用できるようポイントをメモしておくなど工夫し自己学習しましょう。

課題レポート：３回目～４回目は、専門職連携教育になります。「看護職の役割と活動」については調べ学習を行ない、事前にレポートにまとめておきましょう。「自らが目指す職種の役割と活動」のテーマで、自己紹介及びディスカッションしていきます。12 回目の授業終了後、提出となります。

１０回目は、地域の高齢者・障害者・児童家庭福祉の実態について調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。

１１回目の授業終了後、提出となります。

13 回目までに、筋ジストロフィーの障害をもち、人工呼吸器をつけながら自立した在宅生活を送っている人の記事や映画・書籍を読み、どのような連携が可能か、調べ学習を行い、事前にレポートにまとめておきましょう。13 回目の演習時に持参してください。また 14 回目授業終了後に提出となります。

章ごとに文末にゼミナール　復習と課題が提示されています。授業後に復習としてノートにまとめておきましょう。

【使用するテキスト】

福田素生他著　系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度 3　社会保障・社会福祉　医学書院　2024

【参考文献】

増田雅暢編　ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障③　社会福祉と社会保障　メディカ出版　2024

【評価方法】

授業終了時のポストテスト（40 点）、課題レポートを含む演習への取り組み・成果（15 点）、筆記試験（45 点）

課題レポートは指定された日時までに提出してください。指定日時までに提出されたものを評価の対象とします。

【受講上の注意】

2 単位３０時間科目です。つまり自己学習が 30 時間となります。

社会保障や社会福祉の制度は難しいと感じやすいですが、事前学習や復習など自分で学習スケジュールを立て、計画的に行っていきましょう。